

パネル展 利根川の 風景

利根川の水源から河口までを紹介します。

I 期：令和6年5月28日～7月7日

水源～関宿

II 期：令和6年7月9日～9月23日

関宿～河口

提供：野田市PR推進室

水源から



利根川は、新潟県南魚沼市と魚沼市、そして群馬県利根郡みなかみ町の境目にある標高1,834mの大水上(おおみなかみ)山を水源としています。

源流部や上流部では急峻な流れがあり、群馬県みなかみ町の水上温泉付近では、美しい渓谷が形成されます。この川の豊富な水と流れを利用して、ラフティングなどのレジャーも楽しむことができます。



水源から



提供：みなかみ町観光振興課

おおみなかみやま 大水上山

標高1,834m。手前に見える雪渓が水源といわれています。大水上山を含む利根川源流部は、利根川源流部自然環境保全地域に指定されています。

水源の碑

大水上山山頂から約500m南にある利根川水源の碑。一般的な登山ルートは、新潟県南魚沼市の登山口から入山し、十字峡から丹後山を経由するルートがあります。



提供：みなかみ町観光振興課

水源から



撮影：当館職員

やんば ハッ場ダム

支流吾妻川中流部にあるハッ場ダム。ハッ場あがつま湖（ダム湖）には、川原湯温泉街など多くの世帯と国指定名勝「吾妻峡」の約4分の1が沈んでいます。

坂東大橋の上から

伊勢崎市坂東大橋の上から上流方向。川幅も広くなり、流れが穏やかな様子が見られるようになります。橋の上からも河床が見えるほど透明度が高いです。



撮影：当館職員

関宿城周辺まで



関東平野を流れる利根川は、次第に勾配が緩やかになり、川幅も広がり、流れも緩やかになっていきます。広い河川敷が形成されるようになり、公園の他にも運動場や滑空場、こいのぼりなどのイベントの場として、様々な形で利用されています。



関宿城 周辺まで



撮影：当館職員

おおぜき 利根大堰

埼玉県行田市と群馬県千代田町にある利根大堰は、東京都と埼玉県の上水道に供給しています。上流側と下流側の落差が2～3m近くあります。「大堰自然の観察室」から魚道の中の様子を見ることができます。

渡良瀬川合流

皇海（すかい）山を水源とする支流渡良瀬川は、支流の中で3番目に長いです。茨城県古河市と埼玉県加須市の境界で利根川に合流します。



提供：利根川上流河川事務所

関宿城 周辺まで



撮影：当館職員

利根川・江戸川の流頭部

流頭部での撮影時、江戸川左岸側を流れる水が向き変え、利根川右岸側に流れる様子を見ることができました。河床にある石や水量によって流れは変化するようです。

関宿上空

写真左側の利根川と右側の江戸川に分かれます。分流することにより、川幅が半分近くになっていることがわかります。なお、流頭部（川が2つに分かれるところ）は茨城県になります。



提供：野田市PR推進室

取手市まで



上流の清く激しい流れも、穏やかな流れになっていきます。また、周囲はのどかな田園風景が広がります。この田園も利根川の恵みによって大切に育てられています。利根川がもたらす恵みは、生活用水、農業用水、工業用水と、様々な形で利用されています。我々の生活に欠かせない大切な水です。



取手市まで



撮影：当館職員

芽吹大橋の上から

野田市目吹と坂東市荏打（むしろうち）に架かる橋の上から下流方向に撮影。橋の上に立つと下流から上流方向へ向けて、強い風が吹いていることを体感しました。

台風のと

令和元年（2019）10月の台風19号通過後に、当館4階から撮影。河川敷一帯が川となり、堤防の上近くまで増水しました。スーパー堤防上にある当館は避難所になりました。



撮影：当館職員

取手市まで



撮影：当館職員

小堀の渡し（右岸）

茨城県取手市、右岸側の渡し場。左岸側の渡し場からやや下流にあります。利根川の河川改修によって小堀（おおほり）地区は分断され、交通の不便から大正3年（1914）に渡しができました。現在もこの渡し場は使用されています。

利根運河のはじまり

江戸時代末期から中利根川に浅瀬ができ、大型船の通行が妨げられるようになり、明治時代中期に利根川と江戸川を結ぶ運河がつけられました。現在のこの付近は狭く浅い様子でした。



撮影：当館職員

河口まで

銚子市周辺になると堤防や河川敷がなくなり、川と陸は柵や波止場で区切られています。潮の香、カモメの姿に海を感じつつ、太平洋の荒波を目にします。

大水上山から始まった利根川が、千葉県銚子市と茨城県神栖市の間を流れ、太平洋に流れていきます。322 kmの旅が、終わりを迎えます。



河口まで



提供：東庄町総務課

利根かもめ大橋上空

神栖市は霞ヶ浦と北浦を源とする常陸利根川及び利根川と鹿島灘にはさまれた平坦な低地にあります。定規で線を引いたようなまっすぐな利根川の流れは下流域の特徴です。

ヨシ焼き

利根川河口堰付近にはヨシ原が広がり、多くの生物の住処になっています。定期的にヨシ焼きをすることで、ヨシ原の自然環境を改善し、コジュリンなどの生育場を保全しています。



提供：神栖市広報戦略課

河口まで



撮影：当館職員

河口付近

千葉県銚子市、河口付近。昭和9年（1934）に建てられた一ノ島灯台は、荒波を受けながら河口を守ります。穏やかな利根川と対照的な様子を見ることができます。

河口上空

利根川の終着点。大水上に降った雨や雪が、322kmの壮大な旅を終え、ここ太平洋に流れていきます。



提供：神栖市広報戦略課

生き物

利根川で見られる生き物を少し紹介します。

ツキノワグマ



提供：みなかみ町観光商工課

体長120～145cm、体重60～100kg前後。大きい個体では200kgを超えます。食性は雑食で、木の実や昆虫などを食べます。近年ツキノワグマの被害が多くなっています。

ホソバヒナウスユキソウ



提供：みなかみ町観光商工課

支流湯檜曾（ゆびそ）川の上流の谷川岳の蛇紋岩に生息し、薄く雪が積もったような花を咲かせます。「日本のエーデルワイス」といわれています。絶滅危惧II類に指定されています。

アユ



提供：水資源機構

利根大堰には魚道があり、ここを稚アユが遡上する様子を大堰自然の観察室で観察することができます。減少しているもののサケの遡上も見ることができます。HP上でもライブカメラの映像を見ることができます。

生き物

利根川で見られる生き物を少し紹介します。

コウノトリ



提供：野田市PR推進室

全長110～115cm、翼を広げた長さ195cm、体重3～5kg。特別天然記念物に指定。野田市では生物多様性のシンボルとしてコウノトリの舞う里を目指しています。「こうのとりの里」施設では飼育の様子を観察することができます。

ハクレン



提供：利根川下流河川事務所

鬼怒川と合流付近。中国原産。最大で130cm以上にもなります。産卵期に集団でジャンプをします。栗橋や五霞、関宿などでもハクレンのジャンプを見ることができます。

カモメ



提供：銚子市秘書広報課

河口付近。県内有数の渡り鳥の飛来地でもあり、セグロカモメやシロカモメなど、カモメの飛来数と種類が日本一といわれています。千葉県「銚子鳥獣保護区」に指定されています。